

あとは全然違うことを考えています。思考が 行き詰まって  
しまう。そこで「対話」が必要になるのです。

三つの文をそれぞれ訳出していきます。

## A.       あとは全然違うことを考えています。

---

「考えています」をヒントに、述語は think を使うことにしました。

### ▪ S think about A 「S は A について考える」

です。【いつも】という解釈でも【最中】という解釈でも両方とも可能だ  
と思いますが、ここでは後者を採用して、現在進行形で表すことにし  
ました。なお、前者なら、【習慣】の話になるので、現在形になります。

#### (1)       S is thinking about A

【話す主体】である S は下線部前を見ると【小学生】です。もし仮に、  
「最初の 1 分しか考えていません」のところも、英語にしていたら、  
**students** くらいの英語はもうすでに登場していたはずです。そう考  
え、**they** にすることもできますし、訳文として初めてなので、くどい  
けれども丁寧に **students** のように訳出してもどちらでもいいと思  
います。ここでは後者を採用します。

#### (2)       students are thinking about A

【話す対象】である A には、「全然違うこと」を英語で表現したものが  
入ります。「こと」から、**something** や **things** が浮かびやすいかもしれ  
ません。ここでは **something** でいきます。

## 全然違う

---

修飾語です。「違う」とくれば、**S is different** という(S)(V)構造を作りやすいので、関係詞節を作って、**something** の後ろに置いてもいいのですが、そのまま、**something cold** や **anything important** のように、形容詞を不定代名詞の後ろに置く方法もありますよね？ その方法を採用し、**something** の後ろにつけようと思います。最後に「全然」は、「違う」の【**程度が高い**】ことを表しています。**very** や **really** を **different** の左に置いてもいいのですが、ここでは **quite** を置くことにします。

(3) **students are thinking about something quite different**

## あとは

---

**after that**、**then**、**afterward** などがいけるが、ここでは **after that** を選びます。

また位置は、(3)のカタマリの前でも後でもいいと思いますが、ここでは前に置くことにします。

(4) **After that students are thinking about something quite different.**

## B. 思考が 行き詰まってしまふ。

---

まず、末尾の「してしまふ」が気になりました。これは、「お皿を割ってしまった」や、「財布を無くしてしまった時に」のように、【マイナスの出来事】を表現するときに使う日本語です。この文を含め全体を通してマイナスな響きと解釈できるということと、このニュアンスを表す表現はなかなか英語では習わないので、誤差が生じてしまうかもしれません、思い切って切り捨てます。

つぎは「行き詰まる」です。これがなかなか浮かびません。「詰まる」の部分から、

### ▪ S stop 「Sは止まる」

が浮かんできたのですが、「思考」の部分を表す **thoughts** や **ideas** などの表現とのコロケーションが不安です。なのでイメージをしっかりと浮かべてみます。

いろいろ考えていくうちに、**逆の状況を想像して、最後に否定文にする**という技術を使おうと思いました。そこで、【思考が行き詰らない】状況を浮かべてみます。そうすると、【次々と思考が進んでいる】状態が浮かびました。これを足掛かりに表現を探してみます。

【思考が進んでいる】の部分は、【思考】があるから楽かもしれません。**think** を使います。

### ▪ S think 「Sは考える」

です。【考える主体】である **S** は、引き続き小学生です。繰り返しなので **they** を使っていきます。

(5)        **they think**

【次々に】となると、もしかしたら【数が増える様子】が浮かぶかもしれ

ませんが、問題文全体では下線部(1)でもあったように、【**深さ**】です。**think** につなげる形として、**deeply** を選びます。ついでに否定文にしておきます。

(6) **they don't think deeply**

訳出が十分かよく考えてみると、このままなら、【**いつも考えない**】という意味になってしまうことに気が付いてしまいました。**don't** が現在形であることから生じているようです。が、この問題文の表すイメージとは違います。慎重にイメージを浮かべると、ここでは、【**乗り越えられない**】という感じがします。こういった場合、**can't** が使えます。

(7) **they can't think deeply**

難しい発想だったかもしれませんが、思いつけるようにしておくと、様々なところで使えます。「この問題はお手上げだ」を **I cannot solve the problem.** と訳出したり、「かれ納豆が苦手だ」を **He cannot eat nattou.** のように表現したりするのに使えます。

さあ、ここまで来て、また一つ気が付いてしまいました。【**行き詰まる**】となると、【**どんどん進んでいるのに途中で止まる**】というイメージがあります。(7)だと、【**ただ深く考えられない**】という感じがします。【**進む**】のは **deeply** の程度です。このレベルを上げるには、単純には **very** を追加しますが、それだと、**not ... very** の用法から、【**それほど深く考えられない**】というイメージになってしまいます。

じっくり考えると、【**deep の程度が上がる**】というイメージが出てきました。それを英語にすると **more deeply** ですね。

(8) **They can't think more deeply.**

## C. そこで「対話」が必要になるのです。

---

「必要になるのです」から、述語は **need** が浮かびますが、今度は **necessary** を使います。「必要」なのは、「『対話』」のように、【行為】です。なので **to DO** が使いやすい、

- **it is necessary for A to DO 「A が DO することの必要だ」**

を使います。【必要とする主体】である **A** は【小学生】に当たる表現です。繰り返しているので **them** を使います。

(9) **it is necessary for them to DO**

【必要とする行為】である **DO** には「『対話』」をヒントに、

- **S talk with A 「S は A について話す」**

を使います。【話す相手】である **A** は、【小学生として周りにいる話し相手】です。**others** でもいいと思いますが、ここではより具体的に **other students** を選びました。

(10) **it is necessary for them talk with other students**

## そこで

---

ここでの「そこで」は、【場所】を表しているわけではありません。【様子】のほうが強調されています。**situation** を使います。可算名詞であることに気を付けながら **in such a situation** などを選びます。

(11) **In such a situation it is necessary for them to talk with other students.**

**D. A. + B. + C.**

---

これまでできたものを全部足します。

- (12) **After that students are thinking about something quite different. They can't think more deeply. In such a situation it is necessary for them to talk with other students.**

**Model Answer**

After that, students are thinking about something quite different. They cannot think more deeply. In such a situation it is necessary for them to talk with other students.